書いてみよう

年　組　名前

使う資源やゴミを減らすリデュース(Reduce)、ものをくり返し使うリユース(Reuse)、使い終わったものを資源として再利用するリサイクル(Recycle)という、資源を大切に使うための3つの行動を「3R(スリーアール)」といいます。あなたは、「3R」について、どんなことを考えていますか。下の条件に合わせて書きましょう。

「おが流木バンク」本年度も

男鹿市は、市内の海岸に漂着した流木を個人、団体に無償提供し有効活用してもらう事業「おが流木バンク」を本年度も実施する。初めて事業化した昨年度は、570本が希望者に引き渡された。流木の処理費用の削減を図る狙いがあり、本年度も試行的に実施して需要や課題を見極め、来年度以降の本格運用を目指す考えだ。

流木バンクは、流木をガーデニングやアクアリウムなどで利用してもらい、市の流木の処理費用を削減することが目的。市生活環境課によると、流木は塩分を多量に含むため、一般廃棄物として処理すると焼却炉を傷める可能性がある。廃棄の場合、処理困難物として扱われ、1トン当たり数十万円の費用がかかる。

市内では、町内会などの団体や委託事業者が海岸清掃を実施している。清掃時に拾われた流木を旧戸賀小学校跡地に搬入し、提供する。委託事業者による清掃では例年、流木を含めた漂着物が10トン以上回収されているという。

事業は昨年度、2カ年計画で試行的に始めた。昨年度は引き渡し会を4回開き、秋田市や潟上市などの県内の28個人・団体に提供された。1件で60本引き取る事例もあった。

ガーデニングのほかイベント装飾、まき燃料、家具として使われ、引き取った人たちからは「好みの形や大きさのものをゆっくり探せる」「ずっとバンクを続けてほしい」といった声が寄せられたという。

同課の担当者は「570本も引き渡せたのは、需要があったからだと考えている。滑り出しは悪くない」と受け止める。

市は来年度以降の事業の本格実施に向けて流木のより良い管理方法、活用事例を伝えるワークショップの開催について考えていく方針だ。

〈秋田魁新報2025年5月28日付より。記事は手直ししています〉

条件

- 「3R」の3つの行動から一つを選んで題名に書くこと。
- 百字以上、百二十字以内にまとめて書くこと。
- ◆の印から書き始め、改行をしないで続けて書くこと。

題名

100字

120字

出題・監修：佐藤克己(元小学校長)